

教育最前線

連載 21

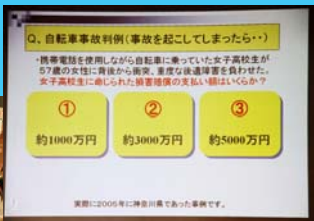
●秋田県立雄物川高等学校・交通安全講話教室

高校生に自転車の安全な乗り方と危険予測能力を身につけてもらう

「自転車交通安全教室」の内容

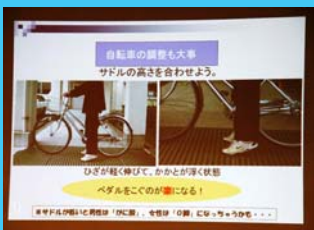
1 自転車に関する基礎知識

自転車に関する基礎知識を、インストラクターがクイズ形式で生徒たちに質問。日常点検のポイントは「ブタはとべる（ブレーキ・タイヤ・反射器材・灯火・ベル）」と覚えて、定期的にチェックするように説明した。



2 自転車の正しい運転姿勢

安全運転の基本となる正しい運転姿勢を解説。「座った時に、ひざが軽く伸びて、かかとが地面から少し浮くようにサドルの高さを調整しましょう。停車中は左足のほうを着地させて、右足はペダルをこぎ出せる位置にしておくことでスムーズに発進できます」とインストラクターがアドバイスした。



3 一時停止と左右確認の重要性

自転車乗用中の事故を年齢層別にみると、死者数においては高齢者（65歳以上）が半数以上を占めているが、負傷者数においては16～24歳が最も多いというデータを示す。また、事故の多くは交差点で発生していることから、同校周辺の信号機のない交差点の写真を生徒に見せながら説明を加える。「『止まれ』の標識のある交差点では、必ず一時停止して右、左、右を確認して発進するようにしてください。確認している間に、後ろからクルマが近づいている場合があるので、必ず後方も確認しておきましょう。」



4 自転車シミュレーター体験

自転車シミュレーターを使って、街中の混合交通における危険予測のポイント、自転車の通行場所など基本的な交通ルールを学ぶ。自転車シミュレーターには左右および後方の安全確認をするためのモニターがあるので、見通しの悪い交差点などでの正しい確認行動を身につけることができる。また、歩行センサーも付いているので、横断歩道などでの自転車の押し歩きも再現できる。



9月21日、秋田県立雄物川高等学校（秋田県横手市）において、交通安全講話教室が開催された。

「生徒の約半数が通学に自転車を利用しているため、自転車の安全な乗り方を理解してもらおうと、総合学習の一環として、この教室を実施しています」と、同校の宇佐美義和校長は話す。同教室の冒頭では、佐々木徳美・横手警察署交通課交通指導係長と、島山



交通安全講話教室には雄物川高校の1・2年生237名が参加

文子・雄物川地区交通指導隊副隊長による講話が行われた。そして今回は、本田技研工業（株）安全運転普及本部栃木普及ブロックの協力により、「ホンダ自転車シミュレーター」を活用した危険予測トレーニングが取り入れられた。

ポイント①

自転車は車両であるという認識を持ってもらう

自転車は道路交通法では「軽車両」という扱いで、車両の仲間であることと生徒たちに知ってもらおう。そのため、クルマやバイクと同じように交通ルールを守る必要があることを栃木普及ブロックのインストラクターが説明し

た。また、女子高生が携帯を使用しながら自転車運転中に歩行者と衝突し、重度な後遺障害を負わせてしまった事故では、損害賠償として約5000万円の支払いを命じられた判例があることを紹介し、事故を起こした場合に賠償責任が発生することがあると注意を促した。

ポイント②

危険予測の重要性を伝える

インストラクターが、事故は当事者双方の認知、予測、判断におけるミスが重なって起きることを説明。さらに、事故にあわない、起こさないためには『KY（危険予測）』が大切であることと伝えた。

自転車乗用中に歩行者の飛び出しがあった時などは、衝突回避できない状況をつくり出すことが事故につながる。あらかじめ、歩行者の飛び出しといった危険を予測することで、スピードを控えたり、すぐに止まれるようにするなど、事故を回避するための行動がとれることを解説した。

ポイント③

シミュレーターを活用した危険予測トレーニング

生徒の代表者（各学年で3名ずつ）が自転車シミュレーターを体験し、他の生徒は大型スクリーンで体験者の運転状況の映像を確認する。

ある生徒が駐車車両の脇を通過する時に突然クルマのドアが開き、そのドアと衝突した場面では、クルマのドアが開くことを予測して、すぐ止まれるように徐行しておくことをインストラクターがアドバイス。シミュレーターを体験した生徒が事故にあった場面を再生して事故を防ぐためのポイントを伝えた。



生徒の代表者の運転状況は大型スクリーンに映し出される

余裕を持った行動が事故防止につながる

「自転車に乗る以前に心がけてほしいことがあります。それは体調管理と時間管理。余裕を持って行動することは事故を防ぐ上で、大変重要です。皆



ご愛読者のみなさまへ
SJに対するご意見・感想をお寄せください！
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきますため、みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。
sj-mail@spirit.honda.co.jp

●愛知県立蒲郡高等学校（愛知県蒲郡市）生徒指導部

杉山 英雄さん

本校は、全校生徒の約3割が自転車で通学しています。生徒指導部が毎朝校門等に立ち、交通安全指導を行うようになって2年目。年に数件の事故が発生しますが、大きな事故はありません。

最近反省しなければと思ったのは、近くの小学校に通う児童から「自転車のマナー改善のお願い」をされたことです。小学生から見ると高校生のマナーは非常に悪く、怖い思いをさせていると感じました。自転車通学者が被害者になる確率が高いわけですが、歩行者にとっては自転車通学者が加害者になる可能性が非常に高くなっています。小さな子どもや高齢者を見たら徐行する。横断歩道の手前では自転車を降り、必ず左右確認をするなど、簡単に思えることも遅刻ギリギリで校門に飛び込んでくる生徒に徹底させることもとても難しいことでした。しかし、生徒の意識が少しずつ改善されてくると、以前なら校門前の横断歩道を素通りしていたクルマも一時停止してくれるようになりました。交通安全は一人ひとりが意識すれば、確実に良くなるものであると確信しました。

本校の交通安全教育はまだ不十分ですが、ホンダが実践している「参加体験型」の教育を、SJ紙を参考にしながら取り組んでいきたいと思っています。これからも生徒の交通安全指導に役立つレポート等の掲載をお願いします。

さん一人ひとりのちょっとした工夫で事故を防げる可能性が高まるのです」とインストラクターが締めくくり、交通安全講話教室は終了した。

受講した生徒からは「普段の自分の乗り方は危険だということがわかりました」「危険予測をしつかりして、安全運転をしたい」という声がかかれた。

「自転車シミュレーターは実際に近い交通状況の中で典型的な事故を再現しているため、体験した生徒だけでなく、それを見ている生徒も興味を持って参加していました。さらに、インストラクターの方が再生機能を使って、いろいろな視点から危険場面を検証していたので、生徒にも参考になったと思います」と、宇佐美校長は感想を語った。